

2023年 ゴルフ規則 主要改訂箇所解説

2023年1月1日から2023年ゴルフ規則が施行されます。2019年の大改訂以降初となる、今回の改訂規則ではゴルフ規則のプレーヤーズ版を廃止し、ゴルフ規則アプリを活用することが推奨されています。これは、環境問題に対する活動を支援するために紙ベースの書籍の発行部数を減らすこと、そして近代化に対応するために規則に関する情報をオンライン化することを目的としています。一方でゴルフ規則書とゴルフ規則のオフィシャルガイドはゴルフクラブ、ゴルフ競技の運営者、レフェリーのためにこれまでと同様に書籍として発刊されます。

2023年規則では、これまでオンラインやオフィシャルガイドにより規則を補足的に説明していた「詳説」や「解釈」を規則の規定の中に組み入れています。また、規定の明確化や文言の修正も引き続き行われました。細かい修正を含めると今回の改訂は多岐にわたりますが、ここではプレーヤーがコース上で頻繁に使用する規則やレフェリー、競技運営者が知っておくべき規則に関する改訂を解説いたします。

※文中の「一般の罰」はマッチプレーではホールの負け、ストロークプレーでは2罰打を意味します。

1 複数の違反に対する罰 (規則 1.3c)

複数の違反をした場合、複数の罰を受けるのか、あるいは1つの罰を受けるのかについての規定が簡単になり、複数の違反の間に介入する出来事があったかどうかで決定することになりました。介入する出来事とは①ストロークを完了した、または②違反に気づいたことを意味します。

事例 1

ストロークプレーで、バンカー内の球をプレーする前に練習スイングをしたときにクラブヘッドが砂に触れてしまいました(2罰打)。その後で、球をストロークしましたが、その球をバンカーから出すことができませんでした。そしてまた練習スイングをしたらクラブヘッドが砂に触れてしまいました(2罰打)。この場合、介入する出来事(ストロークを完了した)があったので、罰は別々に課せられ、プレーヤーは4罰打を受けることになります。

事例 2

ストロークプレーで、バンカー内の球をプレーする前に練習スイングをしたときにクラブヘッドが砂に触れてしまいました(2罰打)。その後で、再び練習スイングをしたらクラブヘッドがまた砂に触れてしまいました(2罰打)。この場合、介入する出来事はなかったため、1つの罰だけが課せられ、プレーヤーは2罰打を受けることになります。



2 スコアカードに記入される ハンディキャップに対する責任 (規則 3.3b)

2023年規則ではハンディキャップ競技でスコアカードに記入するハンディキャップが正しいかどうかの責任はプレーヤーではなく、委員会にあります。委員会は提出されたスコアカードにその競技に適用する正しいハンディキャップが記入されているかを確認し、そのハンディキャップを使用してネットスコアを算出する責任があります。プレーヤーがスコアカードにハンディキャップを記入していなかったり、間違えたハンディキャップを記入していたとしても、プレーヤーに罰はありません。スコアカードのハンディキャップが間違っていたプレーヤーが競技で優勝した場合、ハンディキャップについての責任は委員会にあるので、成績を訂正しなければならず、これは運営上の誤りなので訂正をするための時限はありません。

3 損傷したクラブの取り替え (規則 4.1a)

ラウンド中やプレーの中断中に損傷したクラブは、クラブを乱暴に扱った結果、損傷したものでなければ、修理したり、取り替えることができます。2019年規則ではローカルルールの制定なしには取り替えることを認めていませんでした。

4 グリーンリーディング資料の使用 (規則 4.3a)

2019年規則ではグリーンリーディングの使用の制限(サイズと縮尺)はパッティンググリーン上で行われるストロークと、パッティンググリーン外からパッティンググリーンにバターでプレーする場合に適用されていましたが、2023年規則ではパッティンググリーン上で行われるストロークに対してのみ制限されます。

5 取り替えた球の違反(規則 6.3b)

規則で認められていないのに球を取り替えてプレーした場合の罰が一般の罰から1罰打に軽減されます。

事例

パッティンググリーン上で球をマークして拾い上げた後、誤って別の球をリプレースしてプレーしてしまった場合、プレーヤーは1罰打を受け、その球でプレーを続けなければなりません。

6 救済を受けた後に自然によって動かされた球(規則 9.3)

救済を受けてドロップ、リプレース、プレースした球が止まった状態から自然によって動かされた場合、2019年規則では新しい位置からプレーしていましたが、2023年規則では、その球が他のコースエリアに止まった、またはアウトオブバウンズに止まった場合は罰なしにリプレースしなければなりません。この規則の改訂は傾斜地で処置をしなければならないプレーヤーを助けることになるでしょう。

事例

レッドペナルティーエリア(池)に入った球に対してラテラル救済を受けるため、そのペナルティーエリアの外の急斜面に球をドロップしましたが、救済エリア内に止まらないので再ドロップをしましたが救済エリアに止まらず、その後、規則に基づいてプレースをしてようやく球は救済エリア内に止まりました。その後でその球が風や重力によって自然に動き出し、そのペナルティーエリア(池)の中に入ってしまった場合、罰なしにその球を元の箇所に戻さなければなりません。



7 プレーの線を示すために物を置くことの禁止(規則 10.2b)

2019年規則では、パッティンググリーン上に限り、プレーの線を示すために物を置くことを禁止していました。2023年規則ではこの物を置くことの禁止はすべてのコースエリアに適用されます。

この違反の罰は一般の罰で、ストロークを行う前にその物を取り除いても罰を免れることはできません。

なお、ホールやペナルティーエリアの場所など公開されている情報を示すためにストロークを行う前に人を立たせることはこれまで通り違反とはなりません。ただし、ストロークをする前にその人を移動させなければなりません。

事例

崖下から球をプレーするのにプレーをしていく方向が分からないので、狙いを定めるためにキャディーにペットボトルを置いてもらいました。この場合、プレーヤーは一般の罰を受けます。



8 再プレーを要求されるのにしなかった場合

2023年規則では、規則が再プレーを要求しているのに再プレーをしなかった場合、誤所からのプレーとはならず、2罰打を加え(マッチプレーではそのホールの負けとなる)、その球でプレーを続けなければなりません。

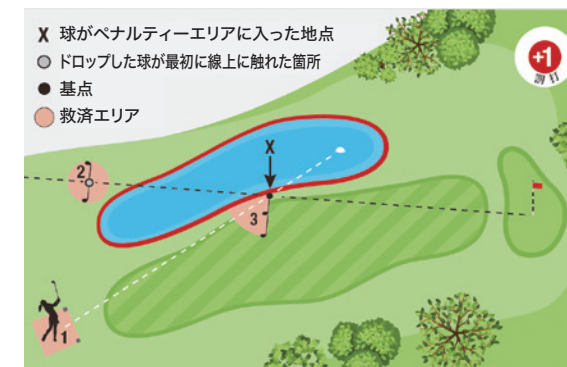
事例

ストロークプレーで、プレーした球が送電線に当たった場合は再プレーをしなければならないローカルルールを採用していました。ストロークした球が送電線に当たったのに、再プレーをせずに、その球でプレーを続けた場合、プレーヤーは2罰打を受けます。

9 後方線上の救済

ペナルティーエリアの救済やアンプレヤブルの救済の選択肢として使用される後方線上の救済の救済エリアが変更となりました。

2023年規則では、球を基準線上にドロップし、球がその線上に落ちた箇所からどの方向にも1クラブレングスの範囲が救済エリアとなります。つまり、ドロップした球がホールに近づいて転がっても1クラブレングス以内に止まっていれば、再ドロップをはいけません。



2023年ゴルフ規則書と2023年ゴルフ規則のオフィシャルガイドの購入はこちら



R&Aゴルフ規則アプリのダウンロードはこちら



10 検索時間内に見つけた球の確認(規則 18.2a)

2019年規則では球が検索時間内に見つければ、その見つかった球が自分の球であるかどうかを確認するための合理的な時間が認められていました。2023年規則ではこの合理的な時間を詳説18.2a(1)/3で明確にし、プレーヤーは見つかった球を確認するために1分間の時間が認められます。

事例 1

プレーヤーは球を捜し始めてから2分30秒で球を見つけたが、その球が自分のものであることをすぐには確認することができませんでした。この場合、そのプレーヤーにはその球を確認するために1分の時間を認めることが合理的であり、つまりプレーヤーは球を捜し始めてから3分30秒以内でその球を確認することができれば、その球は紛失とはなりません。

事例 2

球が3分の検索時間ぎりぎりで見つかりましたが、プレーヤーがその球が見つかった場所に行かない場合、規則18.2a(1)はプレーヤーがその球がある場所に行くための合理的な時間を認めているので、そこに到着してから、プレーヤーがその球を確認するために1分以内の時間が認められます。

11 障がいを持つプレーヤーのための規則の修正(規則 25)

障がいを持つプレーヤーのための規則の修正に関する規則がプレーの規則の25条として新設されました。このことはゴルフ規則がすべてのゴルファーを対象としていることを意味しており、この25条は他の規則と同様にすべての競技に適用されます。規則では障がいのカテゴリーを規定し、各カテゴリーのための規則の修正を規定しています。